

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300481		
法人名	有限会社 まごころ		
事業所名	グループホーム まごころ		
所在地	埼玉県本庄市西富田653-1		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/11/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigvsoCd=1174300481-00&PrefCd=11&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88逸見ビル2F
訪問調査日	平成24年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている一人ひとりのペースに合わせたその方らしい暮らしを頂けるよう支援していきます。明るく居心地の良い空間づくりに努め、ゆったりと安心して過ごしていただくようケアを行っていききたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

浴室、トイレ等が広めの設計であり、車椅子を利用する利用者も安心して生活することができます。平屋建てで、数か所掃き出し窓があるため、非常時の避難経路がいくつか確保されている。恵まれた住環境に加え、事業所の非常事態を知らせるベルを外壁に設置していること、非常事態を知らせるための近所の人の連絡網があること等は、事業所と近所の住民との良い協力関係が構築されている故のものと思われる。職員がAED講習を受けており、実際に使用し助かった経験があることも心強い。利用者が、その日その日をゆったり、のんびりと過ごせるよう、職員は個々の状態に合わせたケアを実践できるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は常に企業理念を掲げてあり、いつでも確認できる。施設内研修等で話し合い、理念に沿ったケアを職員が実践できるよう心がけている。	事業所の目指すケアを7つ玄関に掲げており、日々確認している。理念は、具体的な事例検討だけでなく日常のちょっとした時にも照らし合わせ、実践に活かせるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで近隣の方々と挨拶を交わし、畑で収穫した野菜などを頂くこともある。今年も地域の納涼祭にご招待され、参加された方はとても喜んでおられた。	近所の方々とのお付き合いは良好であり、野菜のおすそわけを頂いたり、気軽に挨拶を交わす関係である。事業所の行事に参加していただいたり、地域のボランティアを定期的に参加し、交流している。	お付き合いの幅、内容を広げることで、事業所と地域との繋がりがさらに深まることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症やグループホームを理解して頂けるよう、お話することができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において地元の自治会長、近隣の方、ご家族に外部評価の意義や説明を行い、職員とも話し合いを行った。	できるだけいろいろな人に参加していただけるよう会議の曜日、内容を検討し、定期的に開催している。事業所の取り組みについての報告の他、そこで出た質問、要望等について話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者は必ず運営推進会議に参加して下さっている。書類提出の際など適切なアドバイスを頂き、とても参考になった。	市担当者には、事業所の取り組みを随時訪問して報告しており、困った時にはすぐに相談できる関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い理解できている。会議でも必ず話し合いをしている。玄関の施錠については国道も近く止む得ないとご家族にも理解して頂いている。	身体拘束についての研修は、新人だけでなく、全職員の定期的な研修の中でも行っている。拘束にあたる具体的な行為についての理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法を正しく理解するため、研修を行い、話し合い、具体的な事例などもあげ、理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設で活用されている方がいないこともあり、制度を理解出来ていない部分もある。これから研修などで勉強し、理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明を行っている。又、質問等して頂き、納得できるよう対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料の支払い時や面会にも頻繁に家族が来訪されるので、希望や意見を伺うことができる環境である。意見等伺ったらずぐに職員間で話し合っている。	利用者の個別的な状況にも対応できるよう、面会時には家族と話をしている。要望に対しては、話し合いをし、サービスに活かせるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、議題に沿った話し合いを行っている。 また、職員からの要望なども聞く機会にもなっている。	事前に議題を知らせ、会議ではできるだけ皆が発言するよう工夫している。管理者は、日頃から話しやすい雰囲気を作り、職員が働きやすくなるような配慮もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加などを推奨し、資格を取得すると手当が付きやりがいとなっている。職員の能力を見極め、報酬アップも行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修に取り組んでいる。また、外部評価の研修にも参加し、研修後は皆で勉強することとしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会会員として支部会に参加し、交流を行っている。同業の研修に参加させて頂いたこともある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時にはまず本人に会いに行くことにしている。話を聞き、質問等にわかりやすく話しをさせて頂き、信頼関係の構築をはかっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族より困っていることや現状を聞き、不安を取り除けるよう、説明を行い要望に応えられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に当ホームをよく知って頂けるよう十分に説明を行っている。また、希望される方にはほかのサービスも紹介させて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとり状況が異なるのでその方にあった方法で支援を行い、出来ることは一緒にやり、役割・やりがいをもって頂けるよう、心がけております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大事な家族である入居者の今の状態や様子は毎月の月次で報告しています。また、面会時には要望をお聞きしたり、現状をお話しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くに住まわれている友人が顔を見に来て下さり、皆様と一緒にレクをされ、楽しかったと言って下さいました。馴染みの美容院へ行かれる方もいます。	馴染みの美容院利用を希望する利用者には、予約や送迎等の支援を行っている。友人の来訪を歓迎し、利用者とのこれまでの関係が継続できるように対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の潤滑油になれるように会話等に参加し、円滑な関係を保てるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時には見舞いに行くなどこれまでの関係性を大切にしている。退居される方についても相談されることがあり、出来る限りの支援を行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いに気づけるように日々のケアにあたっている。表現や言葉に出せない思いにも気づけるよう努めている。	言葉での表現以外に、表情やしぐさ、行動等にも「思い」が表れていると考え、利用者の様子から内面的な変化にも気づけるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで生きてこられた時間を大切に思い、生活歴、情報等を共有し、これからに生かしていけるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムを大切にし、日によって変わる心身の状態や変化を察知できるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンス時には職員が気づいたこと、対応の方法等、話し合いをもっている。普段より改善すべきことについてはその都度話し合いを実施している。	介護計画は、基本6ヶ月毎に家族の要望、意見を聞き取り、職員が意見を出し合って作成している。変更が必要な時には、随時話し合いをし、一人ひとりの状態に即したものとなるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・業務日誌に排泄、食事・水分量・バイタルと夜間の様子を記録し、情報として生かしている。申し送り等でも必ず変化を報告し、より良いケアに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりの要望には出来る限り応えられるよう努めている。買い物や美容院なども本人の希望により対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの来訪や演奏会の実施など楽しんで頂けるよう実施している。地元のお祭りにも招待され、楽しまれた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の定期的な往診や他の入居前のかかりつけ医を受診されている方もいる。訪問歯科、リハビリを希望により受けています。	家族対応にて、希望のかかりつけ医を受診可能であるが、内科は協力医療機関の訪問診療を受診する利用者が多い。希望者は、歯科往診、リハビリを受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医の看護師、薬剤師とは連絡を取り合い、情報を提供し、連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供し、看護師や相談員と連携している。家族とも連絡をとり、退院に向けての支援の準備をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医師との連携を図りながらホームで出来る範囲のことを行っている。	重度化した場合の事業所の方針については、契約時に説明している。管理者は、担当医師から随時利用者の状態の説明を受けており、それを家族にも伝えながら、利用者、家族にとって良い方法を考える支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が救命救急の講習を終了している。AEDの使用方法も見直しを行っている。急変時の対応も研修し、確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署・地区の方や、近隣の方を交えて防災避難訓練を行っている。地区の方にはいつも協力して頂いている。	避難訓練は、消防署立ち会いのもと、地域の方々の参加協力も得ながら行っている。昼想定だけでなく、夜間想定での訓練も行い、昼夜問わず避難誘導できる方法を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせた対応をしている。入浴排泄介助等は同性の介護者がいいという利用者にはそのように対応している。声かけは常に気をつけるように心がけている。	排泄支援においては、利用者に恥ずかしい思いをさせないような対応を心掛け、他の人に気づかれないよう「そっと」支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉が上手に出ない方表現が出来ない方もいらっしやいます。ゆっくり耳を傾けお話を聴き、希望に添えるように心がけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ食事提供、入浴を行っている。朝など起きてこられない方には、ゆっくり起きられた時に召し上がって頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	白髪を気にされる方には毛染めを行いました。とても喜んでおられました。家族からも面会時にお礼を言って頂き、喜んでもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さん食事を楽しみにされています。テーブル拭き、配膳・下膳のお手伝いして頂いています。行事や誕生会などは季節にあった好みのものを用意しています。	高齢化とともに調理をすることは難しくなったが、一人ひとりの希望や能力に合わせて配膳等を職員と一緒にやっている。好みを確認し、旬のものをおいしく食べられるメニューを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事メニューに努めている。その方に合ったカット・量をお出ししている。食事量・水分量は記録している。苦手なものは代替し、食べられるものをお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合わせた声かけ、見守り、介助を行い実施して頂いている。義歯は預かり消毒、清潔保持に努めている。訪問歯科により指導も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常に体調を留意し、個々のパターンを把握し、その方に合った対応を実施している。失敗時にはさりげない対応ケアを心がけている。声かけや誘導にてトイレでの排泄が出来るようになれる方もいます。	できるだけトイレで排泄できるよう、排泄チェック表を利用し、一人ひとりの排泄パターンを把握しながら声掛けをしている。すぐにオムツを使用することはなく、最善策を考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、対処を行っています。身体を動かして頂くことや水分量に留意しています。ひどい便秘時には医師の処方薬を服用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しみにしている方が多く、希望にそえるようにしています。時間等限定せず、ゆっくり入浴して頂いております。また、事故防止のため、見守りしています。	入浴時間を制限していないため、利用者はのんびりと入浴を楽しむことができる。拒否のある人にも無理強いせず、順番や職員等を変え、対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の生活習慣や体調に配慮し、いつでも自由に休息できるよう支援しています。夜間も安眠できる環境づくりを心がけています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情ファイルがあり、いつでも確認できるようにしている。体調変化時には協力医に相談し、対応しています。誤薬や飲み忘れ等ないように確認を必ずしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝い進んで下さる方にはお願いをし、お礼を言っています。その方の好きなことや役割を持って頂けるよう支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常では散歩・買い物に出かけられています。お花見やお祭りなどにも一緒に行かれています。家族の協力を頂き、外食や墓参り、日帰り温泉などにも行かれています。	天候、体調を考慮し、散歩や買い物に出かけて外出を楽しんでいる。季節に合わせてお花見や外食にも出かけているが、家族の協力を得ながら、日頃行けない所への外出も大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして家族よりお預かりしたお金は事務所で管理していますが、金額を把握されている方は自分の欲しいものを購入されたりしています。お財布をバッグに持って安心されている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望されればその都度対応しています。家族の声を聞かれると笑顔がみられます。年賀状、暑中見舞いなど毎年出されています。また、返事を大事にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけ、安全の為の配慮にも努めている。明るい空間を大事にしています。また、季節や天候に合わせて、温度・湿度の調節にも気をつけています。	室温、湿度、天窓からの光の強さ等は職員が管理し、複層ガラスの窓であるため、国道が近いにも関わらず室内は静かである。寒い時期には床暖房も利用し、快適に過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり自分のいたい場所で過ごせるよう支援しています。ソファの配置をかえたり、気分転換をはかり、こち良い空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や布団・大事な写真など自分の居間をつくって頂けるよう支援している。一緒に清掃を行うなど清潔を心がけている。	カーテン、ベッドは備え付けであるが、希望、習慣を優先し、好みのカーテンに変更したり、布団を利用して寝ることも可能である。使い慣れた家具等を持ち込み、居心地良く生活できるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全フロアバリアフリーとなっている。廊下・浴室・トイレ等十分な広さがあり、障害になるものは置かずに安全に生活できるよう配慮している。		